

ナウマン通信



2022年
2月14日発行
第32号

大阪市立我孫子南中学校

アドミッションポリシー



先週、2月10日と11日は大阪の私学入試の日でした。緊張の中、3年生は持てる力を発揮できたことだと思います。結果もすでにでて、一安心している人も多いかと思います。これで進路が決定した人もたくさんいます。決まった人たちは卒業までの日々をどう過ごしますか？もうやるべきことは終わったと気持ちを緩めてはいけません。高校進学はあくまでも通過点で決してゴールではありません。まだまだ次のステージに向けて力を蓄えるときです。この後も公立高校の特別選抜、一般選抜に臨む仲間もいます。そんな仲間のためにも今まで通り、やるべきことをやる毎日を過ごして欲しいと思います。

今日の全校集会（放送集会）でお話ししたように公立高校の受検に臨む人たちは願書と共に自己申告書というものを書きます。これは高校がアドミッションポリシー（求める生徒像）といって是非入学して欲しい生徒像の内容を示したものに沿って自分をアピールする作文のことです。今年のテーマは「あなたは中学校等の生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学んだか。またそれを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。」というものです。特別選抜を受検する人の自己申告書を点検する中で印象に残った一部を紹介します。ある女子生徒は体育大会の時の経験を書いていました。彼女は中学校生活最後の体育大会で担任の先生を優勝に導きたいと強く思います。しかし、自分としては得意ではないハードル走に出場することになりました。どうしようかと思い悩む中、彼女は少しでも早くなるように練習することを決意し、長居公園などに行って走る練習をします。さらにハードルは簡単にはないので、家の中で椅子を置いてそれを飛び越える練習を続けたのでした。結果的にはギリギリ1位を勝ち取ったそうです。

もしかしたらこの練習だけで勝てたわけではないかもしれません。しかし、担任の先生に優勝をプレゼントするために自分ができることは何かを考え、行動に移した彼女の姿は素晴らしいと思います。そして実際に**自分が起こした行動、経験**だからこそ自信をもって文章にできたのだと校長先生は思います。どんな小さなことでも自分で考え、行動し、その結果を受け止めてまた次に生かしていく、そんな誰からも求められる人にみんなが成長できることを心から願っています。